

結婚・出産・子育て部会

第1回	平成27年7月30日（木）	33
	@おぐに開発総合センター 保健相談室	
第2回	平成27年8月24日（月）	36
	@小国町役場 庁議室	
第3回	平成27年9月10日（木）	42
	@おぐに開発総合センター 集会室	

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第1回 結婚・出産・子育て部会 要旨

- 日 時 平成27年7月30日（木） 18:30～20:30
- 会 場 おぐに開発総合センター 3階 保健相談室
- 出席者 懇話会委員：宮原博通、工藤千穂、今絵理子、河内昭、金歩夢、舟山咲
オブザーバー：原田千鶴子、阿部英明
事務局：佐藤政策企画室長、小野政策企画担当主査、廣瀬主任、渡部主任
- 概 要 講師紹介、自己紹介に続き、事務局より会議開催趣旨とまちづくりの基本的な考え方等について説明した後、宮原委員を中心に話し合いを進めた。

○話し合い要旨（内容に応じて再構成したため、実際の発言順とは異なります。）

宮原委員より、事前に各委員に配布していた、県が作成した「やまがた創生総合戦略（仮称）骨子（案）」に基づいて、話が進められた。

宮原委員

県骨子案の3Pに記載された4つの基本目標を家の柱に例え、この柱に囲まれている空間、家が小国町である。4本の柱にはそれぞれ共通点があって小国町を支えている。この家を訪ねてみたいと思われるような町を作っていかなければならない。

暗い雰囲気であれば人はこない。明るい雰囲気ならば人は来なくなる。おもしろい町、ありがたい町であればみんなが誇りに思う。

小国町総合計画にはこれからの町づくりのベースは何かということが書かれているが、これをどうやって実現していくか。何でもかんでも行政がやれるわけではない。町民のみなさんの力によって実現していかなければいけない。

日本は2010年をピークに人口減少社会となり、今までにない自然環境の中で生きていかなければならない。平成35年には小国町の人口は7,000人を切り、高齢化率も40%を超えてくるという試算が出ている。

人口減少、少子高齢化が進む中で、災害への対応に対する問題も出てくるし、保健医療費の負担も厳しくなってくるので、いろんな人の力を引き出していかなければいけない。

この部会では、委員の皆さんから小国町で抱えている課題に対する意識の共有を図りたい。皆さんから課題を出してもらって、その課題はこうやったら解決されるのでは？というところまでやっていきたい。

県骨子案の5Pについて、ページ上部の展開の方法にある、「山形ならではの」「山形」を「小国」に置き換え、また「やまがた結婚・子育て安心ライフサポートを推進」の「やまがた」を「小国」に置き換えて考えてみる。安心して結婚し、子どもを産み育てるために私はこういうことに注目したいということ委員の皆さんからブレインストーミング形式で出してもらいたい。

宮原委員からの説明の後各員から課題を付箋に書いてもらい、その課題を声に出して周りの委員に聞いてもらいながら大判用紙に貼る作業を行った。

各委員から出た課題等については以下のとおり

委員A

- ・休日に親が忙しいときに子どもを見てもらえる環境
- ・山形～新潟、新潟～山形に行く時には小国町を多く通るので、全国チェーンのすき屋やマクドナルドなどドライブスルーを造る。
- ・出産時に近場で産むことができない。
- ・バスを待ったり、憩い（ふれあい）の場がアスモに限られている。
- ・中学生の自転車通学ができなくなった。
- ・地区のイベントを増やす（大切）
- ・視界が悪い
- ・道の整備

委員B

- ・子どもが安心して遊べる場が少ない。
- ・両立できる環境の整備
- ・バスの回数が少なく不便
- ・子どもがお年寄りの自宅を訪問
- ・若者向けの服屋、若者向けの店が少ない。

委員C

- ・町コンあったらいいな。
- ・結婚の前に出会いがない。
- ・マスオさんかお婿さんがほしい女性多い
- ・コストコほしい。
- ・おもしろいイベントしたい。
- ・おしゃれなカフェバーもっとあればいい。
- ・シェアハウス

委員D

- ・余裕を持って働ける→仕事、収入
- ・子どもに優しい町
- ・経済的な安定→仕事
- ・子どもを安心して遊ばせることのできる場所
- ・子育てにかかる時間の確保

委員E

- ・あそび場、公園、運動場があるといいなあ～
- ・子育てサークルなど親子でのつながりをつくる。
- ・職種が選べるほどたくさんの仕事場がある。
- ・シェアハウスで共同生活
- ・仕事量の軽減、有休がとりやすい環境
- ・若者だけでなく、祖父母も子育てに参加
- ・男女が出会える場、イベント
- ・安心して出産できる環境

委員F

- ・まちの人、環境づくり
- ・若い人がふがいない。
- ・青少年時代に逞しさづくり
- ・よろず相談オフィス
- ・子どもを面倒みる仕組み
- ・企業間の連携
- ・仕事場の協力
- ・ワークシェアリング
- ・子育て情報の共有
- ・地区のコミュニティ意識
- ・江戸しぐさの本

- **その他** 部会の最後に今後の部会の開催日程について調整を行い、第2回会議を8月24日（月）、第3回会議を9月10日（木）に行うこととした。

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第2回 結婚・出産・子育て部会 要旨

- 日 時 平成27年8月24日（月） 18:30～20:30
- 会 場 小国町役場 3階 庁議室
- 出席者 懇話会委員：宮原博通、工藤千穂、河内昭、金歩夢、舟山咲
オブザーバー：原田千鶴子、加藤康浩
事務局：佐藤政策企画室長、廣瀬主任、渡部主任
- 概 要 ・佐藤室長より
 - ・総合戦略における基本方針と基本的な方向
 - ・総合戦略・過疎地域自立促進計画 各施策等の整理
 - ・小国町地域創生総合戦略住民意識アンケートの実施状況について、概要の説明を行った後、宮原委員を中心に話し合いを進めた。

○話し合い要旨（内容に応じて再構成したため、実際の発言順とは異なります。）

宮原委員より資料に基づき部会活動のポイント、部会で出し合った課題解決のための活動サイクルについて説明があった。

その後、前回会議を振り返り各委員より感想を述べてもらった。

工藤委員

最初は、どんなことをするのかイメージがわからなくて前半は話しについていくのが精一杯だったが、後半はみんなが考えていることがどんどんでくると話しやすくなった。

ここに住みたいという環境を作っていかないと、いくら結婚、出産しましょうといってもなかなかつなげていかないのかなと感じた。

河内委員

出産と子育てはひとくくりに考えがちだが、結婚から出産と出産から子育てはそれぞれについて同じ見方をできないところもある。子どもを育てたい環境と子どもが求める環境が必ずしも一致しないこともあるので、どこで折り合いをつけていったらいいのか。

またアンケートにもあったが、小国町に求める魅力について小国町の外の人と内の人ではずれがあるので、それをどうしていったらいいか考えている。

金委員

自分の考えや親の話しを参考にして前回の会議で発表したけど、他の委員の意見を聞いてこんな意見もあるんだと思った。また、自分が出した意見について共有してくれる方もいて、すごく勉強になった。

舟山委員

自分は子どもや女性からの視点に重点を置いたけど、結婚になると外に行ってしまう人がいるということも知ることができたし、課題を出すことによって関連づけていって話しを広げ

ていくことを学ぶことができた。

その後、結婚、出産、子育てに関する課題解決への方策について、ブレインストーミング形式で提案が行われた。

出された提案については以下のとおり

SNS関連

- ・地区のイベントの映像を youtube 等で流す。
- ・タブレット端末を高齢者宅へ配布し情報共有をはかる。
- ・youtube に「おぐにチャンネル」を解説する。
- ・face book に「おぐに」の公式ページを開設する。
- ・ワラビーマンのような” ゆるキャラ” が twitter で発信。

情報発信、FM局関連

- ・音楽祭をしたり、分野ごとのイベントをする。
- ・ラジオ放送をする。
- ・音大生に、幅広い層に親しんでもらえるテーマ曲を依頼する。
- ・コンサート、ライブなどの開催
- ・ミニFM局を開く。(酒田市のハーバーラジオのような)
- ・子育て情報の配信
- ・アスモとか中央通りとか、ある場所に行くといつもラジオが流れている。
- ・森の音楽会とか森の映画館とか
- ・TV番組に町ぐるみで出演。

ご当地魅力関連

- ・小国の昔ばなしを紙しばいやアニメにする。
- ・小国町の有名な「ゆうれい」や「ようかい」を使った何かをする。
- ・期間限定でいろいろな店を出店。
- ・ご当地限定グッズ
- ・ご当地アニメのようなものを放送。
- ・フリーマーケット
- ・山菜を使った、小さい子でも好んで食べられる料理やお菓子の開発。
- ・小国の特産品を使ったイベント開催
- ・国道沿いに小国の魅力！看板をたてる。
- ・小国弁、小国音頭がいつでも聞けるお店、道の駅。
- ・雪を利用して雪像をつくる。
- ・大量にふる雪を利用してギネス級の雪だるまを作る。

- ・各地域で行われているイベントを先取りして情報を流す。
- ・雪博物館とか研究所などを作り、「雪」をネタにする。

サポートシステム関連

- ・Uターン、Iターン者への職場のあっせん
- ・通学費の助成
- ・スポーツ施設の充実
- ・子育てパスポートが使える店が増えてほしい。
- ・男性の育休、子育てに時間をさける環境
- ・家族で移住できる場をつくる
- ・〇〇限定コンパ（託児所あります。低料金です。出会いあります。）
- ・文化面、体育（体力面）の拠点づくり

○ その他 次回会議については9月10日（木）に行うこととし、今回の会議で出された意見に基づいて当部会の方向性について整理することとした。

また第4回会議については10月5～7日で調整することとした。

小国町地域創生総合戦略策定懇話会

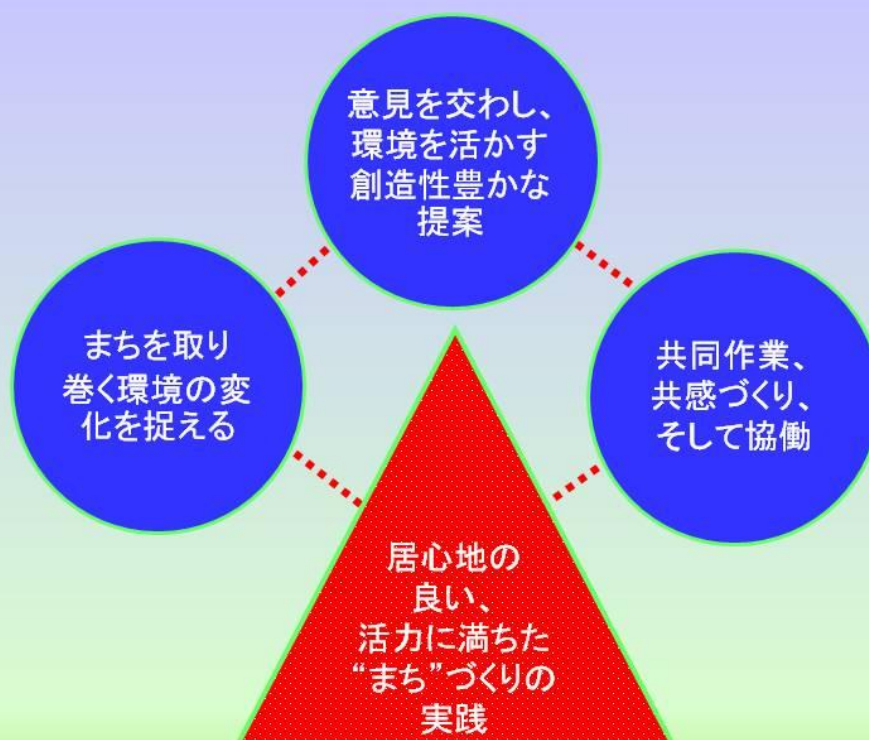
結婚・出産・子育て部会

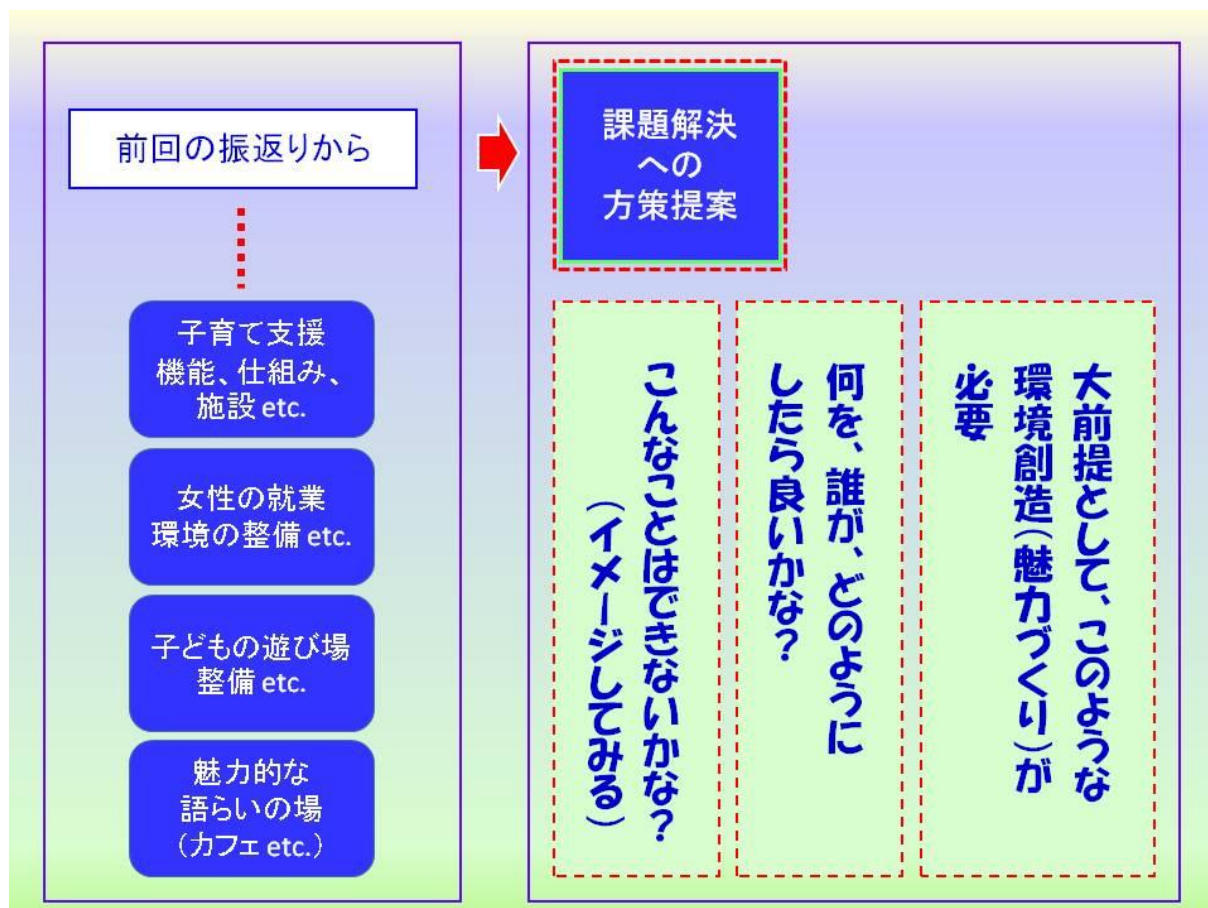
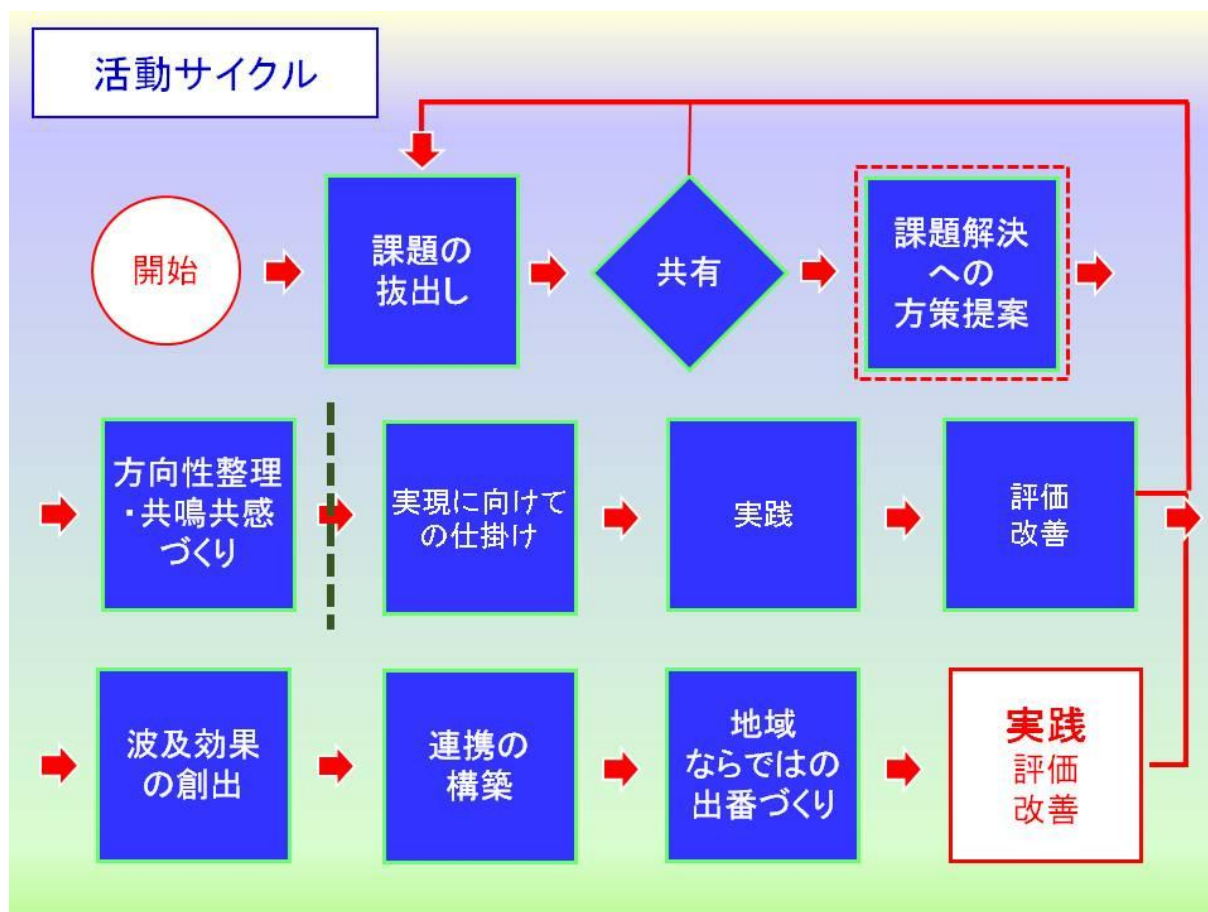
ワークショップ活動の2回目
・・・課題解決方策の提案

平成27年8月24日

地域環境デザイン研究所 宮原博通

部会活動のポイント





例えば・・・

こんなことはできないかな？
(イメージしてみる)



女性による、女性のための子育て支援施設の運営

女性が生き生きと子育てと仕事を両立する全国モデル

産学官民による連携の展開

子育て時間に配慮
2時間1単位労働

健康的な暮らしの魅力が満載の情報発信

小国のファンづくり



小国方式として展開

例えば・・・

何を、誰が、どのようにしたら良いかな？



子育て支援システムを事業ベースで構築する

事業成立の確実性
&
持続性の確立

起業家育成支援プログラムの活用

町内外の賛同者による支援の仕組み

乳児から子ども、高齢者にやさしい食材の開発連携

この指とまれ方式で、意欲ある人たちのエネルギーを結集



活動そのものが
小国ブランド

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第3回 結婚・出産・子育て部会 要旨

- 日 時 平成27年9月10日（木） 18:30～20:30
- 会 場 おぐに開発総合センター 集会室
- 出席者 懇話会委員：宮原博通、工藤千穂、河内昭、今絵理子、金歩夢、舟山咲
オブザーバー：原田千鶴子
事務局：山口総務企画課長、佐藤政策企画室長、小野政策企画担当主査、
廣瀬主任、渡部主任

- 概 要 ・小野主査より
・小国町地域創生総合戦略住民意識アンケートの実施状況
について、概要の説明を行った後、宮原委員を中心に話し合いを進めた。

○話し合い要旨（内容に応じて再構成したため、実際の発言順とは異なります。）

宮原委員より資料に基づいて前回の振り返りをしてから、今回は部会としての方向性の整理として多くの町民からの共鳴共感が得やすい支援活動とは何かについて話し合いを行っていくこととし、いくつかの例を挙げてから各委員に意見を求めた。

各委員からの意見等については以下のとおり。

工藤委員

- ・国道沿いのお店にて、農産物を使ったメニューを出したり、パンフを置く。
- ・小国の特産品を使ったものの販売。
- ・年代別にメニューの開発（食べやすさ、形、量など）
- ・高齢者の話しや昔話、知恵について聞く。
- ・（萱野峠）敷石堀りのイベントなどに参加して話を聞く、食事をする。
- ・新しい施設、例えば子育て支援センターに行ってみたい！と思える場所づくり。

河内委員

- ・SNSによる情報発信（双方向）。
- ・しゃくなげまつりで雪のすべり台を作り、子ども連れを呼び込む。
- ・絵や写真を趣味にしている人が立ち寄れる駐車スペース。

今委員

- ・たかきびうどん
- ・子育てセンターの活動映像をアスモなので上映する。
- ・おもしろCM（you tube）
- ・町中で竹とうろうを一斉に灯す。また、その風景を撮影した写真コンテストを開催する。
- ・ゆーゆの館内でフリーマーケットやワークショップを行う。そのイベント自体も出会いの場にする。

金委員

- ・外灯が少ない（町が暗い）感じがする。
- ・新しく企画するのも大事だが、まず小国町の交通整備（道路整備）をすべき。

舟山委員

- ・若者が多く利用するＳＮＳ（twitter）で情報拡散。
- ・ＳＮＳで町の口コミやイベント情報を伝える掲示板を開設する。

また、河内委員より、第１回部会の内容に関連して以下の意見が出された。

河内委員

- ・帰宅が遅くなっても安心して買い物ができるスーパー
- ・町区ごとに公園の設置を
- ・西松屋などの育児用品・子供服の店
- ・保育園や学校行事などに合わせた品揃えを町内のお店にお願いしたい。
- ・小児科の常駐
- ・町外の高校に通う生徒の通学方法の確保。（小国町に住んでいても、安心して通学できる体制）
- ・大学当の研究機関の誘致→「雪」の活用や研究。

宮原委員

町として町外の人を受け入れようとしたとき、なによりも小国の人が喜んでいろんなことをやっているという環境が、ゼロというのといっぱいあるというのでは外に与えるインパクトは全然違う。そういうことを伝えていくのがフェイスブックであったり町のホームページであったりする。小国の良さを伝えていく中で人のエネルギーが集まってくるし、そのエネルギーが小国町の課題を乗り越えることにつながっていくことになる。

小さな子の手を引いているお母さんの後ろ姿の写真、町の中のすてきな親子の関係、また近所の人の子育てをしているとか、そういった生の声や動きや写真など、そういったものを伝えていくことで小国はいいねということになっていくのだと思う。

最後にオブザーバー、事務局からの意見も求められた。

原田健康福祉課長

子育て支援センターの情報については、支援センターだよりで対象者である就学前児童が居る全戸に配ってはいいるが、町の子育て支援の状況が見えないという声もあるので、対象者がいない世帯への配布も検討したほうがいいのかなと感じた。

山口総務企画課長

他の部会で出た意見なども聞いて、それぞれの部会で出た意見を関連させていかないといけないのだろうということを感じた。

子供だけでなく親などみんなが楽しめるものをつくっていかないといけないのかなと感じており、今回出た意見の中でも実現可能なものはあるのではないかと考えている。

佐藤政策企画室長

いろいろなご意見が多様に出たのかなと感じており、それらを我々がどう受け止めていくかということだと思う。

その中で小国町ですでにやっていることも結構ある。SNS関連でフェイスブックも小国町ではやっているが、なかなか伝わっていないところもあるので、情報の発信の仕方についても考えていかないといけないのかなと感じた。

○ その他 次回会議については10月5日（月）に各部会と合同で行うこととした。

また、当部会での意見については代表して工藤委員に発表してもらうこととした。

小国町地域創生総合戦略策定懇話会

結婚・出産・子育て部会

ワークショップ活動の3回目
…方向性の整理
共鳴共感づくり

平成27年9月10日

地域環境デザイン研究所 宮原博通

前回の振り返りから

町全体での
子育て見守り、
サポート体制・
体質づくり
⇒ 気風をつくる

日頃からの
町ぐるみによる、
コミュニケーション
の場づくり

「結婚・出産・子育て」支援プロジェクト

方向性の
整理、
共鳴共感

向かう方向の
絞り込み

町民の期待に
応える取組みとして、
先ず最初の一步として
踏み出す活動は？

多くの町民からの
共鳴共感が得やすい
支援活動とは何か？

例えば・・・

共鳴共感が得やすい
支援活動などは？
(イメージしてみる)



情報
コミュニケーション

FM放送局

健康的な暮らし
の魅力が満載の
情報発信

元気な高齢者の
出番づくり

ワークシェアリング
によるサポート体制
の確立

陽だまりサロン
などの設置

例えば・・・

何を、誰が、どのように
したら良いかな？



有志による、子育て支
援のコアづくり

支援プロジェクト
のマネジメント
カンパニーの設立

事業成立の確実性
&
持続性の確立

農業生産者
による
“食”のサポート
システム

高校生～高齢者
による、
FM放送DJ



活動そのものが
小国の魅力づくり